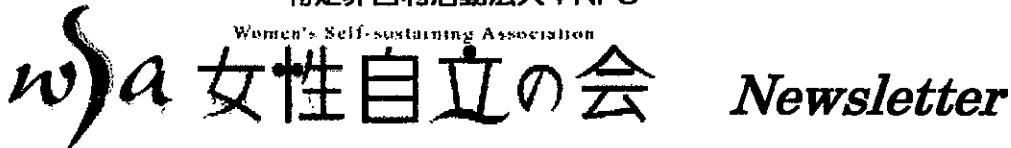


FOR MYSELF FOR YOURSELF

特定非営利活動法人：NPO

Women's Self-sustaining Association



—女性による女性のための支援会—

私たちは、悩みを抱えた女性にカウンセリングを通して生きる力をサポートし、女性が共に助け合い学びあうことで自分らしく生きていく社会を目指します。

私のために、あなたのために…

カウンセリングルーム TEL&FAX03-3390-2119

<http://www.joseijiritu.com> E-mail joseijiritu@nifty.com 発行責任者 有田宏美

本部 〒104-0061 東京都中央区銀座 1-9-8 奥野ビル 207

Women's Self-sustaining Association

原点に立ち返る

NPO 法人女性自立の会

理事長 有田 宏美

新年明けましておめでとうございます。

昨年も当会の活動にご理解いただき沢山のご支援を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

私が多重債務に陥った女性の相談に携わるようになって、早いもので今年は13年目になります。

今から15年前の1994年10月、家業の危機を知られた私は、状況を理解できないまま、ただ毎日のように金銭的支援を求めてくる両親のために送金を続けるようになりました。それも限界となった頃、「どこに相談すれば良いのか」「誰が正しいアドバイスをくれるのか」もわからず、書店で見つけた一冊の本に書かれてあった（信頼できそうな）法律事務所に「父を助けてください」とすぐる思いで電話しました。ところが返ってきた返事は「今、相談が混み合っているので2ヶ月先になります」。2ヶ月も待てない・・目の前が真っ暗になる思いで電話を切ったあの日のことは、今思いだしても胸が苦しくなります。が、この苦しさこそが、私の、自立の会の「原点」なのです。

その後、実家の債務の相談に快く応じてくださった司法書士の先生から「一緒に働きませんか?」と声を掛けて頂き、毎日のように、どこに相談し

て良いかわからずにいた女性の心に触れるようになった私は、いつしか「女性が何でも話せる場所」そして「すぐに話を聞いてあげられる場所」を作りたいと思うようになりました。1996年に女性専用の相談窓口「女性の生活自立の会」を始めました。

あれから13年、今日まで会を継続することができたのは、沢山の出会いの中で、一つ一つ信頼を積み重ね、その結果、皆さんからのご支援をいただいたからこそです。しかし、昨年は忙しさから、「すぐに声を聞いてあげたい」という原点を見失っていたのではと反省する年でもありました。

昨年の暮れ、悪質なヤミ金融に追い立てられている相談者の苦悩を目の当たりにして、相談者と必死に動きました。何とか年を越せるメドがたち、「来年は絶対良い年にしよう」と言って握手を交わしたその手は温かく、気がつくと相談者の表情にも笑顔が戻っていました。彼女の笑顔に触れた時、その笑顔のために始めた活動であったことを思いだし、「私にできること」を精一杯頑張ろうと心に誓いました。今年も相談者に寄り添い、相談者と共に歩み、成長する会作りに努めてまいります。どうぞご支援を宜しくお願ひいたします。

相談者の「声」No.33

「ありがたい出会いから新たな一歩へ」

(神奈川県在住 50代女性)

私が女性自立の会と出会ったのは、2008年6月のことでした。それまでに抱えていた借金をなんとかしたいと思いつつ、インターネットや新聞や電車の中の広告の「債務の整理」という広告を見入ったりしては、どこにいつ電話をすればよいのかと思いながら、いたずらに時間が過ぎていきました。

どうにか勇気を奮い起して電話をしても、ずっと話中だったり、比較的距離が近いので連絡をしてみた所では、延々と話を聞かれた揚句「慈善事業ではないのだから、父母や大きくなっている子どもには借金があることを伝えて、支払いができない時は肩代わりしてもらえるくらいの協力体制がないと相談にはのれない」と言わされました。

私としては、任意整理が可能なら少しでも額を少なくしてから年老いた両親に伝えたいと思ったのですが、受け入れられませんでした。ことの大きさと自分の浅はかさに落ち込むばかりで、そこから先には進めませんでした。

そんな中、以前に切り抜いていた朝日新聞の記事の相談先リストに、「女性自立の会」の連絡先を目にしました。HPを開いてみると、今まで見てきたものとは違うあったかい文面がありました。さっそく力をふりしぼって相談書式から送信させて頂きました。うまく送れていないようで、繰り返しキーを叩いてしまいました。その翌日、有田さんから「アドレスから3回届いているのですが、本文が書かれていないので、ご連絡しました」とご丁寧なメールを頂きました。夜分に怪しいメールで初っ端からご迷惑をおかけしてしまいましたが、するような気持ちでお返事を送信しました。

その5日後の土曜日に、女性自立の会の(引越し前の秋葉原の)事務所にお伺いさせて頂きました。

有田さんは初めてお会いしたその時から親身になって下さり、いろいろなことを全てわかって下さった上で、必要なことを示して下さいました。

このようにお話を聴いて頂けたのは、私にとって生まれて初めてだったかもしれません。これからのことについて、家の近くの相談先をご紹介下さると

のことでしたが、私は遠くても女性自立の会とつながりのある所をお願い致しました。

そして、翌々日の月曜日に早々に話を通して下さり、法律事務所に仕事帰りにお伺いしました。有田さんは事前に相談内容について先生にFAXしておいて下さったばかりか、その日は同行して下さり、とても心強かったです。

事務所の先生も責めるようなことは何もおっしゃらずに、いろいろなことをわかって下さって、これから手続きについて教えて下さいました。こんなにまでして下さることに、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

もう一方で私の支えになってくれたのは、女性自立の会のホームページです。不安になるとホームページを見て、こうして乗り越えていくのだ、と見通しと勇気を頂いてきました。見る度に更新されているのも、すごいなーといつも思っていました。こうして元気を頂いて、少しずつ先に進むことができました。

私の借金は夫が独立して仕事を始めて収入が激減し、手持ちのデパートのカードローンを使い出したのが始まりです。でも、今は夫のせいではなく、自分自身の生き方のことだった、と思います。どこかで目にした「借金は生き方の問題」ということを強く実感しています。

一時期「(解約した)自分の生命保険がかかっていれば、死んだ方がましかもしれない」と思うこともありました。でも、こんな私にも、一本の蜘蛛の糸のように天からおりてきてすぐれるものがあり、やり直せることができつつある今、「私にもまだ生きてしたらいいことがあるのかもしれない」と思えるようになりました。この糸をしっかりとたぐって生きていきたいと思います。

「女性自立の会」とのありがたい出会いで、新たな一歩を踏み出せることを心から感謝しています。

そして、この会の方々とどこかでつながっていることを心強く思っています。

NPO 法人女性自立の会
スタッフ えっちゃん

昨日、今回10回目の今年最後の再生プログラムが開かれました。参加者は9名。テーマは「1年を振り返って～自分への通知表～」です。

今年1月に行われた第1回目の再生プログラムの時に、「一年の初めの計画、目標」を作りました。

目標の項目は、貯蓄、生活、性格改善、その他の4つ。それに対して自分の考えた目標を設定し、内容を振り返りながら、自分への通知表という形で達成出来たこと、達成（継続）出来なかった理由を書き出し、来年の目標を発表し合いました。

皆さんの発表の中で、特に印象に残ったことは返済を続けながら自分の出来る範囲の中で貯蓄をしていたり、設定した目標に対しても一生懸命取り組んできていた様子がとても伝わってきました。

その中で有田さんは、それぞれの適度なスピードでゆっくりでいいので確実な一步を踏み出すことの大切さを伝えてくださいました。

私自身も今年最初に設定した目標を見て、少しずつ改善できていることに気づくことが出来てまた新たな目標を作ろうと前向きな気持ちになりました。

今回、私は再生プログラムに参加して、月に一度みなさんとお会いしてお金のこと、生活のこと、性格や精神的な面について話す機会がある事で、自分自身の刺激になり、改めて気持ちを前向きにさせてくれる場なのだとということをとても実感できました。

私にはとても大切な時間です。皆さんの言葉を、直接聞ける場所があるということにとても温かい気持ちになれました。

みなさまと一緒に、来年も充実した再生プログラムになるよう頑張っていきたいと思います！

◆参加者の声◆

年初の誓いかたいが実現していてびっくり！夢か叶うと幸せいっぱい。この気持ちをキープしていきたいです。お金が貯まっていく喜びを初めて味わえて、この調子でいきたいです。

毎年いろんなことを学び、沢山の人と出会い、影響を受けることができる、私にとって再生プログラムは生活のルーチングワークになりつつあります。

【今年最後の再生プログラムに参加して】

オフィス紀々
紀々

沖縄とさほど変わらないくらいの暖かい12月の午後、今年最後の再生プログラムに参加しました。「自分でつくる通知表」というテーマに、みんなでドキドキ。それは、「評価するための」ではなく「ありのままの自分自身と向き合うための」大人の通知表。

他の方の「目標達成！報告」や「試行錯誤&大苦戦レポート」は、「わかる・わかる！」とうなずいてしまうことも多く、「みんな頑張っているんだなあ。同じ気持ちなんだ。」ということを発見！とても心強かったです。

そして、一番心強く感じたのは、有田さんの言葉でした。

「私のこと・女性自立の会のことを、明日忘れても、明後日思い出さなくとも、まったく構わない。でも、本当に困った時に思い出してほしい。」

そして、皆さんのお話をうかがいながら、一つのキーワードが心に残りました。それは「開（オープン）」。

- まずは「すべてを克服する」ほどの大きな勇気はいらないので、まず「一人で抱え込み、誰かに打ち明ける（オープンにする）」小さな一步をもつことの大切さ。

- 女性自立の会は、「一人にさせない！」という気持ちをもった有田さんと参加者の皆さんが「あなたのために開かれている場」。

- 踏み出した一歩の向こうには、必ず新しい道が「開かれる」。

この3つの「開」という支えをくれた「女性自立の会の皆さんに出会えたこと」は、2008年の私の大きな大きな出来事のひとつでした。

今年一年、ありがとうございました！



2008年NPO法人女性自立の会 消費者教育事業
「お金のワークショップ」第5回（全5回）報告

第5回（最終回）「マネーリテラシー～生きる力を身につけよう」

NPO 法人女性自立の会
理事 河合直美

11月1日（土）、今年最後のお金のワークショップを行いました。

お金といえば「円」をはじめ、「ドル」「ユーロ」などが身近です。しかし、これらのお金は、投機の対象になりすぎることで「コミュニケーションツール」という本来の役割を果たせなくなりつつあります。その結果「格差社会」が生まれつつあるのです。

そこで「もうひとつのお金」である地或通貨について考え、これを活用させ、我々の生活を防衛するために、前回は組織ではなく個人を中心に考える「マイクロビジネス」これを支える「マイクロクレジット」について話しました。

そしてお金のワークショップ最終回のテーマは「マネーリテラシー～生きる力を身につけよう」とし、今まで話し合ってきた成果の集大成をはかりました。

プロローグでは、自己紹介とともに気に入っている「お金に関することわざ、言い伝え」とその理由を披露してもらいました。

「一円を笑う者は一円に泣く」「一攫千金」「イージーカム、イージーゴー」「金は天下のまわりもの」など、それぞれ含蓄のあることわざが参加者の個性あふれる「理由」とともに紹介されました。

ワークでは、寓話「黄金を愛した男」を題材に「隣人だったらどのようなアドバイスをするか」を、みんなで考えました。次に、消費者金融のCMに必ず出てくるフレーズ「ご利用は計画的に」の、具体的な意味を、初めて利用する若者に説明するというワークを行いました。

最後に「オリジナルコピーを作ってみよう」と題して、「お金で〇〇は買えるが、△△は買えません」を考えもらいました。

「お金で宝石は買えるが、友情は買えません」「お金で家計簿は買えるが、ゆとりは買えません」「お金でマッサージは買えるが、幸せは買えません」「お金で何でも買えるが、真の信頼は買えません」など、ユニークなコピーが出来上りました。

お金無しでは、一日たりとも生活できない消費社会に私たちは生きています。だからこそ、これに振り回されることなく、正確な知識や活用する能力を持つことで、豊かさを実感できる人生を送りたい。今までのワークを踏まえて、有意義なワークショップを行うことができました。

◆参加者の声◆

私が気がついたこと、感じたことは 毎回ワークショップに参加させていただいて、お金の問題はとても奥深い、難しい、でもおもしろいと思います。今まで学んだり、ワークショップを通して立ち止まって考えたりしたことを見事に日々の暮らしの中でも生かしていくべきだと思いました。

私が気がついたこと、感じたことは 「ご利用は計画的に」という言葉について、みんなで考えてみたことがとても印象的でした。貸す側と借りる側では意味合いがことなるのかも・・・と気がつきました。

活動報告 1

九州大学での多重債務問題を考えるシンポジウム

「知ろう、語ろう、伝えよう」

NPO 法人女性自立の会
スタッフ りか

平成20年度厚生労働省社会福祉推進補助金による社会福祉推進事業、多重債務者の生活支援事業として、11月26日（水）九州大学にて、多重債務者問題を考えるシンポジウム「知ろう、話そう、広げよう」を行いました。

理事長の有田さん、理事の河合さん、同じく理事の新井さん、当会顧問の重川氏、カメラマン役の新井さんの娘さん、そして私、合計6名での出張(?)でした。

今回のシンポジウムは、九州大学大学院経済学部附属研究院准教授であるハ木信一氏とご縁があって実現したものでした。参加者は約200名。そのほとんどは九州大学経済学部の学生さん、そして一般の方もご参加いただき、開催会場となった教室は人・人・人で埋め尽くされました。



新井さんの司会進行で始まったシンポジウムは、ハ木氏の開会挨拶の後、河合さんから「ちょこっとクイズ」と題し、お金に関する4問のクイズをその場で参加者の皆さんにやってもらいました。

続いて、支援者からのメッセージ「相談者の心に寄り添って」と題して有田さんの講演、相談者からのメッセージとして私の体験談発表を行いました。ここまでが第一部。今回のテーマ「知ろう、話そう、広げよう」の『知ろう』の部分です。

休憩をはさんで、第二部 全員参加型シンポジウム「わたしに、なにができるのか」大討論会を行いました。テーマは『話そう、広げよう』で、有田さんと河合さんがコーディネーターです。

まずは参加者が2人一組でお金を貸した人、借りた人になり、約束の返済期日になんでも返さない人に対してお金を借りた人は返済の督促を、借りた人は返せない理由を説明する、というロールプレイングを行い、実際に話した内容を披露したり、やってみた感想を話してもらいました。続いて、どうしても返済しなければならなかったとき、「あなただったらどうするか?」というテーマで、誰に相談するかまたは借りるか(行政窓口? 身内? 消費者金融? ...)を考え発表してもらいました。

最後に、「わたしになにができるか」というテーマで、啓発や防止をするために今の自分または将来社会人になったとき、どう伝えるか、何ができるか、を考え発表してもらいました。

シンポジウムをやっている間、九州大学の学生さんたちは比較的おとなしかったので、多重債務というものに感心がないのではないか、私たちの思いが伝わったのだろうか、と少し不安になっていました。しかし、終った後に書いたレポートを読ませていただくと、学生の皆さんがこのシンポジウムを通して多重債務について正しく理解し、様々なことを感じ、これから的人生に役立つ知識や意識を持ってくれたことがわかり、シンポジウムをやってよかったとつくづく思ったと同時に、若い人たちへの啓発活動の必要性を強く感じました。



活動報告2

特定非営利活動法人 NPO ロフィア主催
 「韓国消費者信用事情視察団に参加して」
 NPO 法人女性自立の会
 理事長 有田 宏美

平成20年11月12日(水)～15日(土)まで、特定非営利活動法人 NPO ロフィア(理事長 本多昌彦氏)主催「韓国消費者信用事情視察団」の一員として、初めての韓国へと向かいました。

韓流ブームに乗れなかった私にとって韓国は「近くて遠い国」。韓国視察団の一員としてお声をかけていただいた時は、嬉しさと不安が入り交じったそんな気持ちでした。しかし、そんな不安を一瞬で吹き飛ばすほど、今回の韓国視察は、私にとって「目からウロコ」の有意義な視察となりました。

中でも印象に残ったのは、現在韓国では貸付金利は49%(以前は66%)ですが、消費者連盟(日本の消費生活センター)や、金融監督院(日本の金融庁)の方自らが、これ以上金利を下げるることは登録していない業者(ヤミ金)が増えることが予想されるため安易に利息を下げるべきではなく、「業者間の競争で下げることが好ましい」と再度の貸付金利引き下げには慎重な考えを持っていました。

日本の「金利が高いことが多重債務者を生み、金利を下げれば多重債務問題を解決する!」という安易な考え方、対処の仕方に疑問を感じていた私には喉のつかえがとれた瞬間でした。

もう一つ、韓国には「信用回復委員会」が存在し、そこでは法律家が介在することなく委員会が債権者と借り手の間に入り、支払える利息、支払える金額で交渉します。当会の相談者の多くは「借りたものは返していただきたい」、「法的手続きは避けたい」と思っている人が大半です。多重債務=即、法律での解決ではなく、まずは個人の意志、生活再建のメド、可能性を検討する中間的な機関の存在は、「繰り返すことのない多重債務問題」を考えると、日本では法律の壁があるとはいえない検討していただきたい課題だと感じました。

金融システム、カードの歴史だけを見ると韓国

よりもはるかに進んでいる日本ですが、カードとの向き合い方、消費者教育、多重債務者に対する再教育に取り組む姿などは、日本より、ずっとまとめて、当たり前の消費者としてあるべき姿を教えられたと思いました。

私たちの応援団になってください (^ ^)

応援にはいろいろなメニューがあります。

その1)) ロコミニ元隊! 多重債務を始め、お金で悩んでいる人が身近にいませんか?ちょっと声をかけて、自立の会を薦めて下さい。

その2)) NPOの中間になる! お互いに会報等で紹介しあい、パワーアップ しましょう!!

その3)) この会報の購読者になる! 年間購読料が2,000円かかります。

その4)) 会の正会員になる! 年会費は、個人会員:5,000円、法人会員:10,000円です。特典*個人会員は、会報購読を始め、女性自立の会の総会で議決権行使することができます、女性自立の会の催しに会員価格で参加できます。法人会員は、同じく会報購読を始め、会報に広告を掲載できます(事前審査あり)

その5)) 寄付を行う! 個人は一口1,000円、団体は一口10,000円です。

その6)) その他もちろん! ボランティア、などユニークな応援、大歓迎です

寄付・会員は下記まで

①郵便局の振込用紙の場合:

加入者名: 特定非営利活動法人女性自立の会
 口座記号番号 00110-1-0741300

②銀行振り込みの場合:

名義: 特定非営利法人女性自立の会
 三井住友銀行 京橋支店 普通口座
 口座番号: 7983306

読んでみたら書きたくなりました

「世界一あたたかい人生相談」—ホームレス人生相談&悩みに効く料理

ピッグイシュー日本版販売者+枝元なほみ

1333円+税

新聞の人生相談を読むのが好きです。
ラジオなどの悩み相談も面白いと思っています。
さまざまな悩みを持ちながら、どの人も生きているんだなあ、と思います。
深刻な悩みもあれば、どうしてそんなことが悩み?なんて思ったりすることもありますが、その人にとっては重大なこと、なのだと思います。でもって、どうしたって、解決するのは自分自身なのだと思ったりします。

私が人から悩み相談をされることもありますが、理事長有田のようにカウンセリングはできないなあ、と思っています。

子育てに闘々としていたころ、「セルフ・カウンセリング」という手法に出会いました。

気になる場面を切り取り、私のやつしたこと、思ったことと相手のやっていことを時系列に事実を書いていくというものです。とてもシンプルですが、自分の真の気持ちや思考パターンに気づき、「あー、そうだったのか」と目の前が開けるような体験をしました。私の「書く」ことのきっかけでもあります。

その先生が言いました。「この悩みが解決されると、次の悩みが生まれるのですよ」と。実際、生きていると、次々と課題は降りかかってきますね。人間って悩み多き生き物だなあ、そんなふうにできているんだなあ、とつくづく思います。

相談を受けるのはどちらかと言えば苦手ですが、混んでいる場所なども落ち着きません。だから東京はあまり好きになれません。でも、映画を観たり、会議に参加したり、と都内にはおおよそ週1回程度出ている時期もあります。

都内のいくつかの駅周辺で「ピッグイシュー」という冊子を販売している光景を見たことがありますか?

暑い日も、寒い日も彼らはこの冊子を片手に販売

にいそしんでいます。私は遭遇するとだいたい購入します。

「ピッグイシュー」は何か、といえばホームレスの方々が売っている冊子です。ホームレスの仕事をつくり自立を応援するひとつの仕組みです。一冊300円です。160円が販売者の収入になります。

ピッグイシューの中に、「ホームレス人生相談」というコーナーがあります。好きなコーナーです。ピッグイシュー販売員の方が人生相談に答えるというものです。人生の荒波をくぐって来た人たちはかりだから「うーん、そうだよねえ」となることが多い、また、語り口調の書き方もしつくりきて、いつも楽しみにしています。

その人気コーナーが本になりました。それも、その悩みに効く料理のレシピつきです。優しくて、かわいくて、ほのぼのします。

相談者や回答者は様々ですが、自分に置き換えて、長い人生には「そんなことあるある」、とうなずくことはかりです。「そんなときはこの料理食べて元気になろう」と、思えるぴったりのレシピぞろい。

例えば、「聞き役ばかりで、二倍疲れています」には「ロイヤルミルクティ」とか。「仲良し家族を目指す私。そうでない夫にイラ～ッとくることも」には、「豚のしょうが焼き定食」とか。「どうしたら、身近な異性に興味をもつことができますか?」には「ショートケーキ」など、50ものレシピが並びます。いいです。ほんとうにいい本です。

できれば、販売員から買ってくださいませ。彼らにいくばくかのお金が入ります。寒い冬ですから、彼らの力になりたいと思っています。

理事 新井 純子

事務局だより

(今後の予定↓)	テ　マ	日時☆場所
多重債務問題を考えるシンポジウム 「知ろう、話そう、広げよう」in 東京 平成20年度厚生労働省社会福祉推進費補助金による多重債務者の生活再建支援事業として多重債務問題を考えるシンポジウムを行います。	「多重債務は特別な人が陥る問題?」「自分には無関係?」。でも、簡単に多重債務に陥る仕組みや社会環境にある日本では、多重債務問題はある日突然「あなたの問題」になる可能性があります。当会では、「正しく見る」「学ぶ」「伝えていく」を柱に、体験者の具体的な事例を通して「多重債務問題を考えるシンポジウム」を行います。 参加者お一人お一人が「自分の問題として、自分に何ができるか」を考える機会となることを願っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。	1月12日(月・祝) 13:30~16:30(受付は13:00) 場所:日本財団 大会議室(2階) 住所:東京都港区赤坂1-2-2日本財団ビル 1)銀座線「虎ノ門駅」3番出口 2)銀座線・南北線「溜池山王駅」9番出口 ※詳細は、当会カウンセリングルームまでお問い合わせ下さいませ。
2009年 相談者の勉強会 再生プログラム(10回シリーズ) 第一回「自分の生活の幅を知る」 年の初めの勉強会は、恒例の「自分の生活の幅を知る」をテーマに行います。 自分の収入の中で生活するという基本を見失わないよう、自分の収入と同時に、支出の流れを知ることはとても大切なことです。家計簿をつけることで自分の生活やお金を使う癖が見えてきます。年の初めに家計と向き合ってみませんか?		1月24日(土)14時~16時 ※ 場所は未定ですm(_ _)m 参加を希望される方は、当会カウンセリングルームまでお問い合わせ下さいませ。
相談者の勉強会 再生プログラム(10回シリーズ) 第2回「みんなで作る再生プログラム」-合宿- かねてよりご要望の多かった「再生プログラム」の合宿を行います。 1月にということで進めておりましたが保養所が取れなくてやう。そこで、第2回再生プログラムの日に行うことになりました。 みんなで楽しく学び、交流を深めましょう。		2月14日(土)から1泊 ※ 場所は現在、調整中です。 1月の再生プログラムの場で詳細を報告いたします(^)/
<p>※ 上記催し物のお申し込みは、カウンセリングルーム03-3390-2119 または、メール joseiiritu@nifty.com まで</p> <p>※ 再生プログラムの参加費(資料代)は500円)、シンポジウムの参加費は無料です。</p> <p>くお知らせ1>☆☆☆会報購読者・会員・寄付のお願い☆☆☆ 今年も当会の会員・会報購読者になっていただく方を募集しております。 会の活動を継続していくために皆様のご支援、お力添えを必要としています。何卒よろしくお願ひいたします。</p>		

※編集後記※ 理事の新井が書いているmixiに、いつも仲間に囲まれて元気なイメージの彼女が「12月24日の夜は」というタイトルで「しみじみと「ひとり」を感じます」・・ウン?、なにやら雲行きの怪しい書き出しに、なんだなんと読み進めていくと、彼女の子供達は成人しクリスマスを友人達と過ごすから、クリスマスイブの夜を一人で過ごしているとのこと。なるほど・・。私はというと、これまでクリスマスイブの夜に家を空けたことはなく、世の中のご多分に漏れずクリスマスツリーを飾り、ケーキを買って息子と過ごす。もちろんその後の大晦日~元旦も家族で過ごしてきました。ところが今年のお正月は、大学受験まったく中の息子は朝から塾に出掛けてしまうらしく、息子が産まれてから初めて、息子のいない元旦を過ごすこととなりました。(と言っても私は友人とさっさと初詣にでかけましたが(^_^)) 子供が成長する度に「一人寂しく!」の時も増えていくのですね。嬉しいような寂しいような。あり